

(39) パセリ

ア 各病害虫の防除

うどんこ病

疫病

立枯病

炭疽病

軟腐病

アブラムシ類

ハスモンヨトウ

ヨトウムシ

アザミウマ類

センチュウ類

ネキリムシ類

ハダニ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

うどんこ病

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害葉を除去し、処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期に薬剤を施用（散布）する。

疫病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病ほ場では連作を避ける。
- 2 排水を良くする。
- 3 発病株は速やかに抜き取る。

※病原菌は高温性で土壌伝染・水媒伝染し夏期のみ発生するため、補植は9月以降地温の下がる時期に行うと被害を回避できる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌燻蒸剤で土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病初期から薬剤を処理（散布）する。

立枯病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌くん蒸剤で土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病初期に薬剤を処理（散布）する。

炭疽病

(判断、防除に関する措置)

- 1 夏～秋発生する。
- 2 茎葉に発生するが、特に芯が黒褐色に枯れ込む特徴がある。

(耕種的・物理的防除)

- 1 7月中旬～9月上旬の発生時期に雨除け栽培を行う。

軟腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 3～4年以上輪作する。
- 2 排水を良くする。
- 3 発病株は速やかに抜き取る。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から薬剤を施用（散布）する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を活用する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。

- 3 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

ハスモンヨトウ

・ [共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 若齢幼虫のうちに、薬剤を散布する。

ヨトウムシ

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 3 種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を散布する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

アザミウマ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を活用する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を処理する。

センチュウ類

・ [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用する。

ネキリムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害株周辺の幼虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 は種時又は定植時に薬剤を処理する。
- 2 発生を認めたら、薬剤を散布する。

ハダニ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を活用する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※ハダニ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

- 2 気門封鎖剤を散布する。